

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2016年2月)

【内政】

1 インフラ投資

- (1)1日、ロッシ運輸公共事業相はアルティガス県で開催された公開閣議において、国道30号線の改修に係る入札公示が2月に行われる予定であると述べた。アルティガス県とリベラ県を結ぶ国道30号線は、その劣悪な道路状態の改善がかねてから要求されており、バスケス大統領も2015年5月にアルティガスを訪問した際、改修を約束していた。
- (2)17日、政府は米州開発銀行(BID)及びプラタラタ河流域開発基金(FONPLATA)との間で道路インフラ整備に係る計1億4,150万米ドルの貸付契約に署名した。同貸付金は主要国道7本の保守、改修、基盤強化及び橋梁幅の拡張工事に充てられる。

2 バスケス大統領と元大統領4人との会談

2日、バスケス大統領がサンギネッティ、ラカジェ、バジェ、ムヒカの4人の元大統領と会談した。会談後の記者会見でバスケス大統領は、現在複数の石油企業がウルグアイ領内における石油及びガスの存在を確認中であり、また採掘及び商品化の可能性を調査中であるため、炭化水素資源産出国となった場合の国の方向性について大統領経験者と話し合ったと述べた。またバスケス大統領は、ミシェル・ウカール仏トタル(Total)グループ米州副社長からの情報に基づき、3月に再度元大統領4人と会談し、より詳細な話し合いを行う予定であると述べた。

3 燃料アルコールセメント公社(ANCAP)総裁人事

19日、大統領府はプレスリリースでマルタ・ハラ・オテロ Gas Sayago 社ゼネラル・マネージャを ANCAP総裁に任命したと発表した。大統領府が公表した略歴によれば、ハラ氏は1964年モンテビデオ生まれ、ブエノスアイレス大学で化学エンジニアの資格取得、英キングストン大で財務戦略マネジメント修士を取得。メキシコにおける二つの液化天然ガス再気化ターミナル事業(2004年アルタミラ、08年エンセナダ)に参画したほか、アルゼンチン、ベネズエラでも勤務するなど炭化水素分野で21年の実務経験を有する。09~12年、Shell メキシコ社長。仏トータルと三井物産とのジョイントベンチャー等を手がける。12年から現職。ハラ氏は今後議会での承認手続きを経て正式に就任予定。

4 センディック副大統領の学歴詐称疑惑

24日付エル・オブセルバドール紙は、センディック副大統領の学歴詐称疑惑を署名記事で大きく報じた。同紙によれば、副大統領はハバナ大学(キューバ)医学部で遺伝学を専攻し学士号(Licenciado)を取得したとされるが、同紙の電話取材に対し副大統領は、ハバナ大学で性染色体研究の通年講義を担当するフランス人教員の授業準備を手伝ったことはあるが遺伝学を専攻したことはなく、同大も修了することなく中退したと述べた。副大統領は、父ラウル・センディックが文民・軍部独裁体制(1973~1985)下で非法法のトゥパロマス運動指導者であったためキューバに亡命、85年の民主化とともに帰国した。同紙は電話取材の音声をインターネットで公開、ソーシャルメディア上で大きな話題となった。副大統領はハバナ大学から証明書類を取り寄せると述べている。

【外交】

1 センディック副大統領のキューバ訪問

15~16日、センディック副大統領がキューバを公式訪問した。15日、ラウル・カストロ・キューバ国家評議会議長と会談、ウルグアイの「ホセ・マルティ眼科病院」へのキューバからの恒常的支

援、ウルグアイからキューバへの連帯、地域統合、ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体(CELAC)及び米キューバ関係の進展、二国間行動計画(2015年合意)の承認等を話し合った。また同日のラソ・キューバ人民権力全国議会議長との会談後、キューバにおける粉乳、ヨーグルト等の乳製品工場の設置に関心を有する旨表明。16日、カプリサス閣僚評議会副議長と会談、ウルグアイからキューバへの食糧品輸出、牧畜、乳業、医療、バイオテクノロジー分野での両国青年の研修、整形外科・人工器官製作技術支援センターの設置に係るキューバからの協力協定(2009年)拡大等を話し合った。

2 マルコーラ・アルゼンチン外相の来訪

19日、マルコーラ・アルゼンチン外相が来訪、ニン・ノボア外相と会談した。会談では両国共同での環境管理に関する研究所の設置、ウルグアイの液化天然ガス再気化事業による余剰生産ガスのアルゼンチンへの輸出に係る通商協定、ウルグアイ河及びマルティン・ガルシア運河の浚渫及び管理、メルコスール・EU自由貿易協定交渉、メルコスールにおける人権及び多国間組織犯罪対策、両外相レベルでの半期毎の二国間会合実施等が議題にのぼった。

3 メルコスール・EU自由貿易協定交渉に関するバスケス大統領の発言

21日、バスケス大統領は、記者会見で「メルコスールは既にEU側に生産物・商品のリストを提示した。メルコスール側はEUとの自由貿易協定交渉を進展させるべく、全品目中の93%を自由化することにした。」と述べた。報道によれば、2015年10月時点でメルコスール側はEUに対し87%の自由化を提案していたが、いくつかのEU域内国がメルコスール側オファーは不十分との認識を示した。その際、EU側は91.5%の自由化を提案した。

4 ミケティ・アルゼンチン副大統領の来訪

24～25日、ミケティ・アルゼンチン副大統領が来訪した。24日、ミケティ副大統領はセンディック副大統領と会談、ウルグアイからアルゼンチンへのガスの輸出、メルコスール・EU自由貿易協定交渉、ウルグアイ河の浚渫、UPM木材パルプ工場の環境モニタリング、港湾貨物取扱の自由化、中等教育問題、麻薬取引に関する新しい二国間政策の可能性、両国共同での観光誘致等について話し合った。が議題にのぼった。25日、バスケス大統領と会談後記者会見し、アルゼンチンはウルグアイの液化天然ガス再気化事業に多大な関心を持っていること、メルコスール・EU自由貿易協定交渉についてメルコスール側は既に貿易品目リストについて合意し、EU側にリストを提出しており回答待ちであること等を述べた。

5 オランダ・フランス大統領の来訪

25日、オランダ仏大統領が当国を公式訪問し、バスケス大統領と会談した。会談後、両大統領は共同で記者会見した。

(1)オランダ大統領は、メルコスール・EU自由貿易協定交渉について、個人の立場からの見解であるとしつつ、交渉を支援し我々の意向を表明したい、また農業及び視聴覚メディア分野について合意の中身を注視していきたいと述べた。また紛争、平和維持活動等国際社会における課題について、平和維持活動に参加しているウルグアイに感謝の意を表しつつ、団結して紛争解決にあたるため国連安保理非常任理事国であるウルグアイとともに問題に取り組みなくてはならないと述べた。また仏からウルグアイへの投資について、今回の公式訪問にあわせ仏企業関係者とウルグアイ企業関係者との会合が行われることを挙げ、仏企業のウルグアイへの投資への関心に言及、また、ウルグアイ領海内における石油開発にあたり仏トタル

- (Total)社の技術を信頼して同社を選んだバスケス大統領に祝意を表すと述べた。
- (2)バスケス大統領は、科学技術及び文化協力、国際社会での立場、メルコスール・EU自由貿易協定交渉の前進、国連安保理における共同行動等の面で再度オランド大統領と完全に一致したと述べた。

【社会】

1 治安

- (1)2月8日午後0時ごろ、パラグアイ人男女がモンテビデオ郊外のシウダ・デ・ラ・コスタ地区を車で通過中銃撃され殺害された。警察は薬物密売組織と関係があると見て捜査している。この銃撃で男性は頭等に銃弾14発を浴びて即死状態、女性は銃弾を受けながら車のコントロールを試みたが通行人一人(16歳のウルグアイ人女性)を巻き込んだ後停止、女性と通行人も死亡した。同乗していた子供(7歳)は軽傷。男女は麻薬組織の関係者と見られる弁護士で、昨年12月頃から休暇でアルゼンチン、ウルグアイに滞在中であった。男女はブラジルではブラックリスト入りしており、アルゼンチンで逮捕歴があった。当局の手配網にかからずになぜウルグアイに入国できたのかは不明。車内から麻薬等は発見されず、麻薬取引の証拠になり得る不審点は見当たらなかった。
- (2)ウルグアイは、世界的な第三の違法商売と言われる動物の違法取引の通過地点となっている。例えば、ウルグアイ原産の蜘蛛80匹がカバンに入れられドミニカ共和国へ密輸された事件では、欧州や米国が最終目的地であった可能性が指摘されている。この蜘蛛の取引額は1匹80～120米ドルと言われ、希少動物が高額で取引されていることが分かる。ウルグアイはワシントン条約(CITES)の締約国であるが、ウルグアイ国内の青空市場ではキツネ、鳥(猛禽類)、亀などの無脊椎動物等が露店に並んでいる状況であるため、密輸出入についての調査及び取締りの強化が必要である。
- (3)ウルグアイ上告裁判所は、ボリビア国籍の被疑者アレハンドロ・メルガルをボリビアに引き渡さないことを決定した。メルガル被疑者はサンタ・クルス(ボリビア)のテロ集団「セパラティスタ」の構成員と見られるウルグアイ人で、国外での犯罪容疑によりウルグアイ国内で訴追される最初のケース。ウルグアイ組織犯罪法廷は同被疑者をボリビアへ引き渡す決定を下したが、上告裁判所がボリビア司法の客観性、公平性を疑問視して同決定を破棄、ウルグアイでの訴追を決定した。なお同被疑者はボリビアにおいて反逆罪による有罪判決を受けたが、裁判を担当した裁判官と検察官が判決の後ブラジルへ亡命、亡命先のブラジルで同被疑者に不当に有罪判決を言い渡すようボリビア政府から圧力をかけられたと証言した。

2 ウルグアイにおけるデングウイルス感染自然発生

- (1)13日、ウルグアイ厚生省はモンテビデオ・ポシートス地区在住の31歳女性が2月初旬、高熱、全身の関節痛を訴え病院で受診、デング熱に罹患していたことが判明したと発表した。デングウイルス感染の国内自然発生最初のケース。厚生省はモンテビデオにおいて疫学的調査を行い、感染のリスクがあると判断された住居の消毒を行う予定。バツソ厚生大臣は国民に、住居の周囲を乾燥した状態に保つ等各住民が感染のリスクを下げる措置をとるよう再度要請した。
- (2)23日、厚生省は2月22日現在、デングウイルス感染者は17件(うち8件は国外感染、9件が国内感染)であると発表した。感染者の居住地域はサルト県1名、サン・ホセ県1名、モンテビデオ県内7名(ポシートス、コルドン、ウニオン、マルビン・ノルテ地区)である。

(了)